CUTE-UCN）の報告，天気，46，299-300.
Suzuki, R., 1991：The response of the surface wind speed to the synoptic pressure gradient in central Japan, Journal of the Meteorological Society of Japan, 69, 389-399. (in English with Japanese abstract)
Thamm, H.-P., 私信：Untersuchungen zu den Auswirkungen der Stadionerweiterung des SC-Freiburg auf das nächtliche Bergwindsystem (1996, in German)
VDI, 1997：Umweltmeteorologie. Klima-und Lufthygienekarten für Städte und Regionen, VDI-Richtlinien VDI3787 Blatt 1, 73p. (in German and in English)
Wirtschaftsministerium, Baden-Württemberg, 1998：Städtebauliche Klimafibel. Hinweise für die Bauleitplanung, 271p. (in German)

極域・寒冷域研究連絡会のお知らせ

極域・寒冷域研究連絡会より，1999年秋季大会（福岡）での開催内容のご案内を致します．

日　時：1999年11月26日（金，大会3日目）17：15頃～2時間程度

場　所：大会D会場（アクロス福岡608会議室）

話　題：「極域寒冷域とグローバル変動」

「成層圏循環と北極夜振動」
小寺邦彦（気象研究所）

「オゾンホールが引き起こす大気大循環の変動」
渡辺真吾（九州大学理学部）

「オホーツク海の海氷変動と気候変動」
立花義裕（東海大学文明研究所）

「新生代寒冷化における南極氷床形成の影響について」
小倉知夫（東京大学気候システム研究センター）

「南大洋の大規模変動―ウェッデルポリニア及び南極周極波動―」
本井達夫（地球フロンティア研究システム）

今回は「極域寒冷域とグローバル変動」と題して，講演特集を組みました．

長期間にわたる現場での観測データの蓄積や，客観解析データ，衛星データの充実，並びに気候モデルの長期積分によって，極域寒冷域における気候変動の実態とそのメカニズムが徐々に解き明かされつつあります．この過程で，近年の温暖化傾向を含む気候変化にみられる極域寒冷域の変動の特異性や周辺への影響など，地球の気候系における極域寒冷域の果たす役割の重要性が指摘されてきています．こうした研究の発展には，現地での直接的観測だけではなく，間接的手法による研究も重要な貢献をしてきました．

そこで，今回は理論・数値モデル・データ解析等による「デスクワーク」を中心に研究を進められている5名の方々に講演をお願い致しました．両半球の極域寒冷域における大気・海洋・海氷・氷床に関する研究についての最新の話題や成果，近年注目されている研究テーマ，極域寒冷域研究の重要性や問題点，など幅広く紹介して頂く予定です．今後の極域寒冷域研究の発展のために，このような「デスクワーク」研究と現場観測とを一層有機的に結合させて行くにはどうしたらよいか，出席者全員で考えたいと思いますので，多くの皆様のご参加を世話人一同お待ちしております．

なお，開始時刻の詳細は学会会場にてご案内致します．

代　表：木村龍治（東京大学海洋研究所）
世話人：平沢尚彦（国立極地研究所）
中村　尚（東京大学理学部）
浮田甚郎（地球フロンティア研究システム）
高田久美子（国立環境研究所）
阿部彩子（東京大学気候システム研究センター）
本田明治（地球フロンティア研究システム）